



令和4年防災功労者内閣総理大臣表彰表彰式（総理大臣官邸）



会報

防災だより

2023
VOL.30

3月31日発行

CONTENTS

1. 会長ご挨拶(会長 齊藤 浩) 2 P
2. 令和4年防災功労者内閣総理大臣表彰 3 P
3. 全体研修会 4 P
4. 視察研修 4 P
5. 避難行動要支援者支援事業 5 P
6. 防火管理に関する講習を開催(後援) 5 P
7. 各部会主催事業 6~7 P
8. 消防本部からのお知らせ 8 P

発行所●八戸地域防災協会事務局（消防本部予防課内 八戸市田向五丁目1番1号）

☎ (0178) 44 - 2133 FAX (0178) 44 - 1196

E-mail:bousaikyoukai@hachinohe119.jp ホームページ : <http://www.8bousai.com>



会長ご挨拶



会長 齊藤 浩

会報「防災だより」第30号をお届けします。

東日本大震災から今年11日で12年が経過しました。改めて犠牲になられた方々のご冥福をお祈り致します。今年、関東大震災から100年の節目を迎え、過去の震災の経験を風化させず、教訓を踏まえた事前防災の重要性を高めていかなければなりません。

昨年8月に八戸市から新たな「津波ハザードマップ～津波から身を守るために～」(冊子版)が、市内の全世帯と事業所に配布されました。以前のものより市内の想定浸水面積が約4割広がり、馬淵川、新井田川を津波が遡上していくことがよくわかります。また、津波の特徴も記載され、「津波の速さ」、「津波は引き波から始まるとは限らない」、「津波は繰り返し押し寄せる」、「水深が浅くても危険」などの教訓も紹介されています。今一度、確認したいものです。

令和4年の日本列島は、6月から記録的な暑さが続き、7月には西日本を中心に、8月は東北北部で記録的な大雨により河川の氾濫、農作物への被害がありました。また、日本のみならずアメリカ、カナダ、イギリス、ポルトガルなど多くの国々で異常な高温が続き、特にパキスタンでは国土の3分の1が水没する大洪水に襲われました。

一方で、国連報告によるとオゾンホールがあった南極上空のオゾン層が修復され、破壊前の状態に回復するとの予測が発表されました。それによると、オゾン層の破壊物質であった冷蔵庫の冷媒やスプレー缶の噴射剤などに使われた「フロン」の生産や消費を禁じる国際条約により規制が強化され、破壊を食い止め回復するとのこと。オゾン層が破壊されると大量の紫外線が地球に直接届き、皮膚がんや白内障を引き起こすと言われていましたが、世界規模の取り組みが功を奏し、防ぐことができます。地球温暖化対策にも、こうした結果が成功事例として繋がってほしいものです。

さて、協会の令和4年度を振り返りますと、やはり新型コロナウイルス感染症の感染者数の増減の影響を受けた1年でしたが、予定していた事業を遂行することができました。新型コロナウイルスの対応についてはマスク着用のルールが緩和され、5月の連休明けには、感染症法上の「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」へ引き下げられる予定で、3年に及ぶコロナ対策は転換点を迎えます。いよいよ社会生活が正常化に向け前進していくようです。協会にとっても「語り合って友人となり、活動して仲間となる」という会員相互の交流も正常化に向かっていくことを願っております。

コロナ禍の閉塞感の漂う中、令和3年の防災担当大臣表彰に続き、令和4年9月13日には総理大臣官邸で内閣総理大臣表彰を拝受することができました。改めて八戸広域消防本部並びに関係機関の皆様、そして会員の事業所の皆様に感謝申し上げます。こうした表彰を励みとし、地域に貢献していく団体として今後もより一層努力して参りたいと思います。

更なる新時代に向け、持続可能な発展へと繋げていくために、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年 防災功労者内閣総理大臣表彰



令和4年9月13日（火）、令和4年防災功労者内閣総理大臣表彰の表彰式が総理大臣官邸で執り行われ、齊藤浩会長が出席いたしました。

防災功労者内閣総理大臣表彰は、内閣府が毎年、広く国民が災害についての認識を深めるとともに、災害に対する備えを充実強化することにより、災害の未然防止と被害の軽減に資するため、「防災の日」及び「防災週間」に、日ごろから防災思想の普及又は防災体制の整備に尽力し、あるいは、災害時における防災活動に顕著な功績のあった個人又は団体を対象に行っているもので、八戸地域防災協会が実施している避難行動要支援者支援事業、防災意見発表会、火災予防啓発のため行っている防火ポスターの作成・配布などの防災活動が、防災思想の普及に貢献していると認められ受賞しました。

また、当協会が育成援助を行っている八戸地域少年消防クラブ育成協議会の千葉学園高等学校消防クラブも受賞し、防災思想の普及の分野では4つの団体が表彰されましたが、うち2つが八戸地域からの受賞と

なりました。

八戸市庁において八戸地域広域市町村圏事務組合管理者である熊谷雄一市長へ受賞の報告を行い、「引き続き八戸地域の安心・安全なまちづくりのため活動をお願いします」と激励の言葉をいただきました。



全体研修会

令和4年11月10日（木）、八戸パークホテルにおいて齊藤早苗氏（宮城県南三陸町立戸倉小学校元教諭）を講師に招き、会員約70名が出席して全体研修会を開催しました。



『困難な状況からの新たな再出発』と題して、過去の災害を語り継ぎ、地域で防災・減災へ取り組むこと、日ごろから地域の方々と協力し話

し合い、信頼関係を築くことが大切であるご講演をいただきました。

東日本大震災で大津波を目の当たりにし、高台へ逃れて避難所生活を送った当時の写真や体験談を交えた内容は、出席した会員にとって、今後の防災・減災について多くの教えをいただくこととなりました。



視察研修

令和4年8月24日（水）・25日（木）・26日（金）の3日間にわたり、令和3年11月3日に開館した八戸市美術館視察研修を開催いたしました。



八戸市美術館視察研修は令和3年度に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から残念ながら開催中止となり、今年度は開催日を3日間に分散し、計67名の会員の皆様にご参加いただきました。



研修内容は、美術館職員の方から館内を案内していただき、八戸市美術館では美術品を守るためハロゲン化物消火設備という水を使用しない特殊な消防用設備を使用していることや美術館特有の空調設備等について、普段一般客は見ることのできない美術館の裏側なども見せていただき、わかりやすく説明していただきました。

その後は、館内の展示作品等を自由に観覧し、とても有意義な時間となりました。



避難行動要支援者支援事業

令和4年11月14日、15日、17日の3日間、各市町村担当課、民生委員、八戸電気工事業協同組合、協同組合八戸管工事協会及び㈱ユアテック八戸営業所の協力のもと、高齢者世帯及び障がい者世帯に住宅用火災警報器の寄贈・設置事業を行いました。

今年度は、八戸市（市川地区）、南部町、階上町の47世帯に対し、住宅用火災警報器（計68個）の寄贈設置、さらに火気使用機器及び水回りの点検整備とあわせて、火気取り扱いなどの注意を呼びかけました。



この事業は、社会福祉事業の一環として実施しており、住宅火災から高齢者などの避難行動要支援者の犠牲を減らし、安全で暮らしやすい日常生活の維持に寄与するとともに、災害のない明るい街づくりの推進を目的としています。

来年度以降も、計画的に実施する予定ですので、会員皆様のご協力をお願いいたします。

【今年度活動していただいた事業所は次のとおりです】

住宅用火災警報器設置	水回りの点検整備
株式会社 ユアテック	株式会社 成田総合設備
株式会社 本田電気工業	株式会社 宮本農機
株式会社 フジカツ電設	株式会社 松本工務店
有限会社 沢森電気	有限会社 三貞
北日本計装 株式会社	不二興管工業 株式会社
	西浦水道建設工業 株式会社
	東復建設 株式会社

☆ご協力ありがとうございました。☆



防火管理に関する講習を開催（後援）



令和4年度の防火管理に関する講習は、甲種防火管理新規講習が9回、乙種防火管理講習が1回、甲種防火管理再講習が2回、八戸消防本部で開催されました。

消防法により、一定規模以上の防火対象物は、防火管理の資格を有する者を防火管理者として定めることとなっており、本講習は、その資格

を取得するためのもので、今年度開催した講習の受講者は466名となりました。

新たに資格を取得された方々には、防火管理体制の充実、強化にご尽力されますようお願いいたします。



八 戸 部 会

八戸部会は、12月2日に総会と研修会を八戸プラザホテルにおいて開催しました。

総会では欠員となっていた役員の承認が滞りなく行われました。



研修会は、八戸市市民防災部防災危機管理課の石橋健治主査による「災害予防に係る取り組み」及び青森地方気象台観測予報管理官の安藤昭芳氏による「防災気象情報の活用」についてご講演いただき、65事業所69名が参加しました。

石橋主査からは、八戸市が行っている災害情報の伝達や避難場所の確保、危険箇所や避難場所の

確認等の取り組みについて説明していただき、自分たちに何ができるのかを考えるきっかけとなりました。

安藤氏からは、近年の大雨事例の紹介や警戒レベル・防災気象情報について詳しく丁寧に解説していただき、理解を深めることができました。



昨年度は開催に向けて準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大により研修を中止したため、八戸部会としては令和2年度以来の研修となりました。今回も感染状況をみながらの難しい判断となりましたが、平野部会長となつてから初の総会・研修会を開催し、会員の皆様と久しぶりにお会いすることができ、非常に喜ばしく思いました。

八 戸 東 部 会

八戸地域防災協会東部会では、令和4年度研修会を昨年の12月9日(金)に実施いたしました。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会の開催を見合わせていたことから2年ぶりの開催となりました。



研修内容は、【防災気象情報の利活用について】と題しまして、青森地方気象台防災気象官の工藤敏氏に講師をお願いし、リモートでの講演を実施していただきました。テレビなどで放送される防災気象情報の正しい読み取り方や、昨年、青森県で初めて発表された「線状降水帯」について詳しくご説明いただいたほか、自分自身が被害に遭わないための気象情報の積極的な取得方法など、日常生活を送る上でたいへん有益な情報をご教示いただきました。

研修会終了後には記念品として「卓上ミニのほ

り旗セット」と「消防・防災キューブBOXティッシュ」、そしてお弁当をお持ち帰りいただきました。

今回はコロナ禍を考慮し、リモートによる講演スタイルの研修会となりましたが、多くの会員の皆様と実りある講演を聴講できましたこと、たいへん嬉しく思っております。

結びに、防災対策のさらなる充実・強化を図るため、会員の皆様には引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、事業所各位のますますのご発展を心よりご祈念申し上げ、研修会開催のご報告とさせていただきます。



三 戸 部 会

三戸部会研修会につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ幾度となく相談を重ねた結果、苦渋の決断ではありましたが、今年度は見合わせることにしました。

今年度の事業として、自然災害が猛威を振るう

状況に備えるため、各事業所へ防災グッズ（非常持ち出し袋、救急11点セット、防災捺染タオル）を配付させていただきました。



また、秋の火災予防運動では3年ぶりに開催された、三戸消防署管内防災広場・名川分署管内防災広場・田子分署管内幼年消防キッズパークにて、火の用心巾着袋（抗菌マスクケースセット）を贈呈させていただき、パレードや防災広場で子供たちの喜んでいる姿を見ることができました。



五 戸 部 会

五戸部会の前期研修会は、新型コロナウイルス感染症の動向も加味したうえで、「防災に関する標語公募」を実施しました。募集内容は自由投稿とあわせエントリー標語から選択する形式としたことにより管内63事業所から多くの投稿が寄せられ、部会長、副部会長による厳正な審査・選考のうえ入選した標語は以下の2点となりました。



- 「訓練と 日頃の備えが 身を守る」
(東北メディカル学院)
- 「防災は もしもの時の 備えから」
(株式会社 東北産業)

それぞれ入選した作品は、防災協会のロゴマークとともに大型の防火垂れ幕となり、五戸消防署庁舎及び西分遣所庁舎のメディアタワーへ掲げられ、令和5年2月、事業報告会において賞状及び

記念品を添えて表彰式を行いました。

防火垂れ幕は、定期的に掲示し、今後も防災PRに大いに活用していきたいと思えます。

後期研修会では数年ぶりとなる救命講習会を五戸町立公民館において開催しました。

18事業所29名が参加し、救急に関する技術習得と知識理解を高めることができました。

他の取り組みとしては、協会への加入促進を図るため「防災協会加盟事業所募集」のPRのほりを導入し、防災広場会場や消防庁舎前に掲げ広報を行いました。

会員事業所に「防火管理の腕章」を配付して、防火管理責任の所在を明確にすることで、防火管理体制の強化を図りました。

協会の活動について、部会員からは「非常に有意義で良かった。」「また参加・受講したい」との声が多く寄せられ、標語募集と共に寄せられたアンケート結果を参考としながら、今後も充実した活動を展開していきたいと思えます。

また、梅田部会長から「今後も防災活動の取り組みに団結して邁進していきましょう。」と結びの言葉を受け、部会員は互いに防災強化に対する決意を新たにいたしました。

お い ら せ 部 会

おいらせ部会では11月18日(金)に、令和4年度視察研修(後期研修会)を実施いたしました。

新型コロナウイルス感染症患者数が増加し第8波を危惧される中での開催となりましたが、バスを運行していただいた株式会社寺下運輸倉庫様のご協力及び個人による新型コロナウイルス感染症感染防止対策に万全の態勢で臨み、成功裏に収めることが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。

研修内容は、令和3年11月に開館したばかりの八戸市美術館に設置してあるハロゲン化物消火設備という水を使用しない特殊な消防用設備を、美術館職員の方から分かりやすく説明していただき、その後



館内の展覧会作品を視察し見聞を深めました。例年開催している視察研修後の懇親会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催せず弁当の持ち帰りとなりました。

結びに、防災対策のさらなる充実・強化のため会員の皆様には、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、事業所各位の益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。



消防本部からのお知らせ

電気が起因の火災年々増加

順位	出火原因	件数
1	たき火	13
2	放火	12
3	配線機器	8
4	電灯・電話等の配線	7
	ストーブ	
	排気管	
7	電気機器	6
8	たばこ	4
	こんろ	
10	煙突・煙道	3



燃焼実験



電気火災に注意！

八戸消防本部管内で、屋内配線や延長コード、電気機器等が出火原因となる火災を見てみると、平成30年は火災全体の6.5%でしたが、令和元年から増加傾向になり、令和4年は21.2%となっています。

屋内配線の場合、ブレーカーが下がるなどの異常があったり、リチウムイオン電池は充電中の異常発熱や電池に膨らみがあったりするなどの前兆があります。

またプラグでは、長期間放置し掃除をしていなかったために溜まった埃を介して電気が流れる「トラッキング現象」が発生したり、延長コードを踏みつけたりしたことで線が切れかかる「半断線」が発生することで発火します。

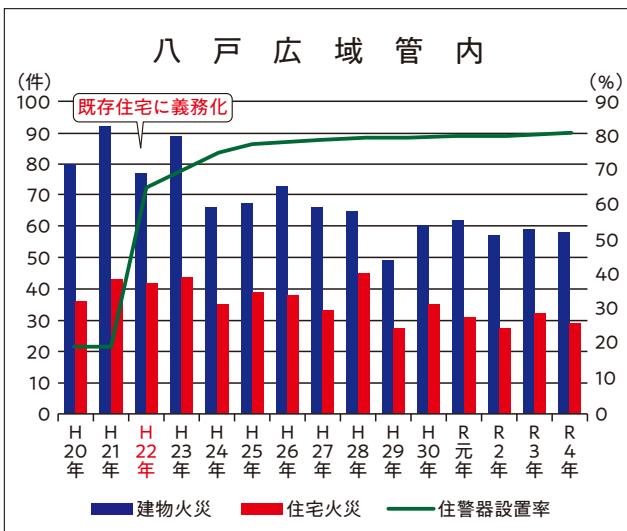
何かしらの異常があった場合は使用を控えて、メーカーや電気店での点検や交換を行って下さい。

火災を予防するためには・・・

年に数回でもコンセントの掃除をすることで、火災予防になります。万が一発火した場合、延焼させないためにもコンセント周りには燃えやすいものは置かないようにしましょう。

延長コードは、メーカーでは使用の推奨期間をおよそ5年としています。古くなった延長コードは交換し、家具の下敷きにならないよう注意して、強く束ねて使わないようにしましょう。

火災は、一瞬で大切な人や物を奪います。火災を予防するためにも、日頃使っている電気製品、電源コード、コンセントなどをこの時期に点検・清掃をしましょう。



住宅用火災警報器 点検も 設置・交換をしましょう

住宅用火災警報器設置義務化から10年以上が経過し、八戸消防本部管内の建物火災・住宅火災をみると、平成24年から減少傾向にあります。

火災に発展する前に異常を発見し、火災にならずに済んだり、少ない被害で済んだりする奏功事例が毎年あります。

住宅用火災警報器の交換の目安は10年となっていますので、自分の大切な家族の命を守るためにも新しい物と交換しましょう。